

〔夏季例会合宿調査報告〕

湯ノ丸高原・麓ノ登山・池ノ平・

三方ヶ峰の植物観察会

白井幸長

第131回例会は平成元年6月24日(出)・25日(回)に小
県郡東部町 湯ノ丸高原→麓ノ登山→池ノ平→三方
ヶ峰のコースで植物観察会が行われた。

参加者は中山潤・池田登志男・花里弘・小口好久
・平林陸男・宮島吉彦・今井建樹・大野晋・尾台喜
貞途中から参加した中沢袈裟延夫妻と幹事の白井の
総数12名で盛会であった。

第1日目の24日は数日来続いた豪雨にみまわれ、
25日の観察会があやぶまれた。「花紋ロッジ」に5
時半までに集合ということであったが、観察会が行
われるかどうかの電話もあった位である。夕方宿で、
今井先生はきれいにつくられたキバナアキギリの標
本をもってこれ、その変異につき説明された。池
田先生からはアカミノヌツゲの標本をわけてもら
った。夕食後、長い間 湯ノ丸高原をパトロールし
て高山植物の保護にたずさわってこられた宿の主人
の柳沢さんより、その経験を長時間にわたって聞い
た。美しい目立つ花はすぐぬきとられてしまい、貴
重な植物が年々減少してしまうとの事であった。こ
のように柳沢さんの話を中心に懇親を深めることが
できた。

第2日目の25日は、前日までの豪雨とはうって変
わって快晴になり絶好の観察会日和になった。車で
早朝5時40分より群馬県吾妻郡嬬恋村の浅間山溶岩
樹型を観察した。当時の噴火による溶岩流のものす
ごさを示すものであった。溶岩樹型の穴には雪が残
っているものもあった。付近の植物として、クロマ
メの群生、コケモモ、チョウセンゴミシ、シラカン
バ、ツマトリソウ、スズラン、ミネザクラ、サワフ
タギ、イワカガミ、ミツバオウレン、オオヨモギ、
ツバメオモトなどをあげることができる。

60万株もあるといわれる湯ノ丸高原のレンゲツツ
ジの開花は今年はややおくれて5分咲きであった。
朝食後、車で湯ノ丸高峰林道を麓ノ登山のふもとま
で行き、コメツガークロベ優占群落の中を観察した。
低木のアズマシャクナゲの淡紅色の美しい花は見事
であった。その他森林の中の主なものとして、ツル
ツゲ、マイズルソウ、セリバオウレン、タケシマラ
ン、ゴンゲンスゲ、ハクサンシャクナゲ、コミヤマ
カタバミ、フタバラン、イチョウラン、オオカメノ
キ、ホソバノトウゲシバ、ツバメオモト、アカミノ

イヌツゲ、ツルリンドウ、ナナカマド、スノキ、シ
ロバナエンレイソウ、シラビソ、オガラバナ、クマイ
ザサの群生、シシウド、スギカズラ、ヒメイチゲ、
珍稀種としてミスズランを発見できたのは大きな収
穫であった。総じて、この森林の林床植生は複雑で
変化に富んでいた。森林をでて再び林道をのぼった。
林道わきの主な植物として、シロバナヘビイチゴ、
ヤマドリゼンマイ、シャジクソウ、シラタマノキ、
クロウスゴ、ハクサンイチゲ、ミヤマヤナギ、マル
バダケブキ、特にミツバオウレンとセリバオウレン
のかれんな花が印象的であった。

駐車場に車を置き、その上の小道を通り、のびや
かな湿原地帯である池ノ平に向かう。小道を少し行
ったところで、イワカガミの満開の群落に出会う、
皆その美しさに驚き一斉にシャッターを切る。

小道の両側に高木のカラマツが生えており、その
下にクマイザサ(花)が群生していた。池ノ平付近の
植物は、カクミノスノキ、ダケカンバ、グンバイズ
ル、ツマトリソウ、シャジクソウ、ヒメシダ、ミツ
バオウレン、レンゲツツジ、ミツバツチグリ、ハク
サンチドリ、ネバリノギラン、ショウジョウバカマ、
エゾリンドウ、マツムシソウ、ウラゲコバイケイ、
ハクサンフウロウ、ミヤマアキノキリンソウなどで
ある。男池、女池という小さな池を囲んでヒメシャ
クナゲの花が咲き誇っていた。これは他から移植し
たものである。湿原は7月には群落するアヤメの花
が咲き誇るとのことであるが、まだ時期が早くヒメ
シャクナゲ以外にそんなに目立つ花はなかった。次
に三方ヶ峰(2040m)に向かう。

草原の中にところどころ高木や低木が見られた。
山頂で昼食をとる。山頂からの眺めがすばらしく、
小諸市や付近の山々をはっきりと見渡すことができ
た。三方ヶ峰の主な植物は、キタダケゴヨウマツ、
ドウダンツツジ、ネバリノギラン、イワカガミ、ガ
ンコウラン、ハクサンチドリ、ミヤマヤナギ、シロ
バナヘビイチゴ、シャジクソウ、ズミ、レンゲツツ
ジ、ヒメイズイ、フデリンドウ、イワインチン、サ
ラサドウダン、シラネワラビ、オオカメノキ、マイ
ズルソウ、ミヤマワラビ、クガイソウ、コメガヤな
どである。帰りにコマクサ園に立ち寄る。コマクサ
がちょうど満開で有刺鉄線越しにシャッターを切る

人が多かった。これも他から移植したものである。最近このコマクサ数十株が持ち去られたのは残念である。コマクサ園付近の主な植物は、ツガザクラ(花)、ガンコウラン、ミネズオウ(花)、コキンレイカ、コヨウラクツツジなどである。ここから駐車場に戻ったのは2時半頃であった。

時間が早かったので、尾台さんの案内で軽井沢の植物を観察することになった。大野さん(横浜市)は遠いので参加をとりやめ、11名が参加した。林床はやや暗く、湿気をおびていた。主な植物は、ミヤマウズラ、フデリンドウ、ヤマタバコ、ヒオウギ、

カルイザワテンナンショウ、コウライテンナンショウ、オニヒョウタンボク、ルイヨウボタンであった。特に数株のヤマタバコの雄大な姿と美しい黄色の花に魅せられ、感動した。ここで解散したが、今井先生は更に軽井沢植物園をみて帰られた。

この観察会を通して、会員の皆さんが植物に詳しく、多くの事を教えられ、私にとって非常に有意義であった。好天に恵まれ、観察会が成功裡に終わったのも、案内をしていただいた柳沢さん、終始お世話になった中山・池田両先生のお蔭と感謝する次第であります。

〔植物ニュース〕 142. 日本産ヒダカソウ属新亜種

1989年9月、佐藤 謙・伊藤浩司両氏により「植物研究雑誌」64巻9号で、北海道の岨山からキリギシソウ(新称)がカラフトミヤマイチゲの新亜種として発表された。伊藤氏が1982年に、ヒダカソウとして発表した植物を詳細に調べ直した結果、ヒダカソウではなく、1935年にサハリンから記載されたカラフトミヤマイチゲ *C. sachalinense* の新亜種であるというのである。産地に基づいて、キリギシソウ *C. sachalinense* ssp. *kirigishiense* と命名された。次に両氏のヒダカソウ属の検索表を示す。

1. 花卉の長さは幅のおおむね 2 倍以上…………… 2
1. 花卉の長さは幅のおおむね 2 倍以下…………… 4
2. 根生葉の葉身は花時に長さ 1—2 cm 根生葉の頂葉の葉柄の長さは通常側葉の葉柄の長さと同長—2 倍長 …………… ヒダカソウ
2. 根生葉の葉身は花時に長さ 3—9 cm ; 根生葉の頂葉の葉柄の長さは通常側葉の葉柄の長さと同長—4 倍長…………… (カラフトミヤマイチゲ) 3
3. 花茎は花時に長さ 17—31 cm ; 1 花茎当たりの花数はおおむね 1—2 …………… キリギシソウ
3. 花茎は花時に長さ 23—36 cm ; 1 花茎当たりの花数はおおむね 2—3 …………… カラフトミヤマイチゲ
4. 花卉はおおむね円頭、長さ 8—12 mm, 幅 5—8 mm ; 葉は両面共に著しく白粉状…………… キタダケソウ
4. 花卉はおおむね円頭または鈍頭、長さ 12—15 mm, 幅 6—10 mm ; 葉は両面共白粉状にはならない…………… ウメザキサバノオ

既にこの両氏の論文を読まれた方は多いと思うが、北アルプスやハケ岳で新しい本属植物が発見されることを期待して、ここにご紹介する。

両氏の研究は、日本のヒダカソウ属を整理されたよい研究であるが、和名・学名共に、産地をあまりにもはっきり表しすぎて気になる。(豊国秀夫)

〔植物ニュース〕 143. シロバナヒオウギアヤメ

Iris setosa Pall. form. *albiflora* (Sugawara) Sugimoto 学生時代に志賀高原の植物に接していた。その当時、生標本を新聞紙にはさみ持ち帰っては、乾燥標本を作っていた。田の原湿原のヒオウギアヤメも同様にしていたが、根茎があまりに大きくて困り、下部は切り取り、生家の庭へ植えておいた。株はだんだんに増え、毎年美花を楽しませてくれた。

1989年6月4日、母に呼ばれて行ってみると1株が初めて白花を咲かせていた。白花の出た原因は、不明である。日本草木植物総検索誌(杉本1973)によると、シロバナヒオウギアヤメの産地はサハリン島のみである。

栽培地：長野県東筑摩郡四賀村会田新町

(横内 文人)

144. エゾウコギ *Acanthopanax senticosus* Harms

1989年10月29日、南佐久郡佐久町大日向で植生調査していたところ、スギ植林下に見なれないウコギ科の植物が見られた。植物体はまだ小さく高さ30cmほどで茎と葉には著しい細い刺があった。気にはなかったが、植物体が小さいこと、周囲を探してみたが1個体しか見られなかったため、個体の採集はせず写真を撮り、数少ない葉を1枚野帳の間に挿んできた。

発行されたばかりの「日本の野生植物」(木本Ⅱ, 平凡社)を見たところ、その特徴からエゾウコギであることがわかった。樺太、朝鮮、中国(北部、東北)、アムールに分布し、日本では北海道にのみ分布が知られているにすぎない。

どのようにしてここに生育したかは定かではないが、植物体が30cmと小さく、スギ林下で今後成長できるか見守っていきたい。

(吉沢 健、池田登志男)